

外交史料館ニュース

一、外交記録公開

「公文書等の管理に関する法律」(平成二十二年法律第六六号)及び「外交記録公開に関する規則」(平成二十二年外務省訓令第七号)等に基づき、二〇二四(令和六)年以内に以下のとおり外交記録(計七六八冊)を外交史料館に移管し、目録に掲載した(ファイル等の概要情報は外交史料館ホームページにて閲覧可能である)。

一月三十一日	一一六冊
三月二十九日	一〇一冊
五月三十一日	一三二冊
七月三十一日	一三九冊
九月三〇日	一四二冊
十一月二十九日	一二七冊
十二月二十六日	一一冊 ※

※は特別審査対象ファイルであり、即時閲覧可能な状態で公開された。その中には一九九三(平成五)年の宮澤総理米国訪問、同年のガリリ国連事務総長夫妻の訪日、サミット第一九回東京会議、第一回アフリカ開発会議(TICAD)、GATTウルグアイ・ラウンドの実質合意に関するファイルが含まれる。これら全文書の画像が外交史料

館ホームページで閲覧可能である。

二、所蔵記録のマイクロフィルム化及びデジタル化の実施

戦後七〇年を契機として内閣総理大臣の下に設置された「二〇世紀を振り返り二一世紀の秩序と日本の役割を構想するための有識者懇談会」は、報告書において、我が国が取るべき具体的施策として「アジア歴史資料センターの充実」を指摘した。これを受けて当館では、同センターへの史料画像提供及び所蔵記録の保存などを目的として、二〇一六(平成二八)年度から戦後外交記録のマイクロフィルム化及びデジタル化の作業に順次着手している。

二〇二三(令和五)年度においては、戦後外交記録のうち、第一三〇四回外交記録公開で公開されたファイルを中心に作業を進め、同センターに三三二冊分(八四二七七コマ)の画像を提供した。なお、その中には、特別審査対象ファイルとして公開された一九七二年以降の文書画像も一部対象として含まれている。

三、展示

二〇二四年四月八日、麻布台ヒルズ内に新しい展示室を開室した。新展示室での特別展示第一弾として、二〇二四年七月一二日から八月三十一日まで「日英通商航海条約―陸奥宗光と条約改正―」を開催した。類縁機関との連携展示にも、引き続き尽力したいと考えている。二〇二四年は小村寿太郎侯奉賛会(日南市)との共催展示「小村寿太

郎とポーツマス条約」を、小村寿太郎記念館にて開催した。以上については本誌関連記事を参照いただきたい。

また、二〇二四年一二月から翌年一月まで、在京ギリシャ大使館との共催で、日・ギリシャ外交関係樹立一二五周年を記念した企画展示「外交文書に見る日本・ギリシャ関係」を当館展示室において実施した。なお、麻布台ヒルズの新展示室がリニューアルオープンしてから、二〇二四年内の展示の総見学者数は一四九九〇人であった(二〇二五年の初開室日に一五〇〇〇人を達成)。今後ともさらに多くの皆様にご来場いただけるよう、環境整備に努める所存である。

四、人事(外交史料館長)

二〇二四年七月一日付で山本英昭館長が着任した。